

活動報告書 2022 - 2023



苦しく辛い経験をした子どもは、誰よりもつよくやさしくなれる。
被災地の子どもたちの成長は、私たちの希望です。



● 各種変更をご希望の場合

寄付金額、クレジットカード、領収書の宛名変更等のお問い合わせは
右記 QR コードまたはお電話にてご連絡ください。

● 遺産・相続財産の寄付をご検討されている場合

まずはお電話にてご相談ください。

お電話
03-3330-0005
(平日 9:00 - 18:00)

お問い合わせ



公益社団法人ハタチ基金

〒166-0003
東京都杉並区高円寺南33-66-3 高円寺コモンスズ2F
TEL:03-3330-0005 (平日 9:00-18:00)
<https://www.hatachikikin.com>





ハタチ基金

ハタチ基金は、
東日本大震災発生時に0歳だった子どもが、
無事にハタチを迎えるその日まで、
心のケアや学び・自立の機会を継続的に提供します。



2031年復興のその先を切り開く力を、子どもたちに。



ハタチ基金立ち上げ当初は、被災地で不安な日々を過ごす子どもたちの目の前の課題解決に重きを置いて活動を行ってきました。震災から10年以上が経過し、現在は「2031年復興のその先を切り開く力を、子どもたちに。」をスローガンに掲げて活動しています。震災が理由の「できない」をなくし、どこに生まれても、どんな経験をして、人生は自分で創っていけると思えるよう、ハタチ基金は皆さまからのご寄付を活用してまいります。昨年一年間、皆様のご寄付がどのように子どもたちに届けられたか、ぜひ活動報告書を通してご覧ください。

代表理事よりご挨拶

東日本大震災の影響を受けた子どもたちがハタチになるまで支えたいと始めたハタチ基金の活動は、皆さまのお力添えをいただき、12年目を迎えることができました。

2022年度は助成団体が昨年度から4団体増え、13団体となりました。学習支援、居場所づくり、探究学習の伴走など、支援の分野は様々です。どの団体もきめ細やかなサポートで、子どもたちがいま悩んでいること、チャレンジしたいことなど対話を通して理解を深め、信頼関係を築いています。助成団体の活動や関わりが安心できるものであるからこそ、子どもたちは正面から課題に向き合い、成長を重ねていくことができています。そして嬉しいことに、かつて“子ども”として支援を受けた若者たちが、ボランティアやインターン、時に職員という形で助成団体の活動に加わり、子どもたちの支え手となるケースがよく見られるようになってきました。こうした支援の循環が起こり始めていることは、被災地の中長期的な復興にあたり、とても頼もしいことだと感じています。

このように復興が進む一方で、原発や津波被害の影響により、今になって家庭環境の悪化や子どもの不登校などの課題が生じているケースもあります。

ハタチ基金は、これからも子どもたち自身と子どもたちを取りまく環境が健やかであることを願って、支援を続けてまいります。今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

公益社団法人ハタチ基金
代表理事

今村 久美



現場からの声

【子どもの声】

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン / 高校2年生（活動：スタディクーポン提供事業）

クーポンを使用できたことで、苦手を克服して前に踏み出せた

私は約6年前からクーポンを利用しています。いただいたクーポンは学習塾に使用し、先生と共に、日々勉学に励んでいます。

通い始めの頃は、当時不登校だったということもあり、なかなか足を運ぶことができませんでした。1、2か月に一度だけということも多くありましたが、塾の先生はとても優しく、わかりやすく教えて下さり、苦手な科目が得意になっていくにつれて塾に行く頻度も増え、勉強に対して意欲的に取り組むことができました。

高校に入ってから、塾で学んだことを生かしながら授業を受けています。塾では授業の予習と復習を中心にご指導をさせていただくようになり、定期考査では常に80点以上の高得点を維持し続けることができています。

私が通っている高校は資格の取得にも力を入れていて、資格関係の勉強も並行して、塾の先生に見ていただいています。昨年度は全経簿記2級などを中心に3つの資格を取得し、入学してからの2年間で計8つの資格を取得することができました。寄付者の皆さまのご支援がなければ、私はきっと不登校で勉強が苦手なままだと思います。ですが、今はこうして、たくさんの資格を取得し、定期考査で高得点を取り、将来はこの資格を使った仕事をしてみたいという夢もできました。その夢を叶えるためにも、より上級の資格を取るために、日々勉強を続けています。



©Natsuki Yasuda / Dialogue for People

NPO法人かぎっこPROJECT/ 高校1年生（活動：高校生百貨店）

「東北を好きな人」に出会うことで強まる地元愛

高校生になって、学校とは違った地域の活動をしてみたいという思いがあったのですが、なかなか活動を見つけられず、高校生百貨店を友達に紹介してもらいました。

実際に活動してみて、今まで知らなかったお店にインタビューをして、おすすめの商品を探すという活動は、地域のことについて知る楽しさやコミュニケーションのとり方などを学べた良い経験になりました。とくに、地元の人と話すことで、商品や地域に愛着を持っている人がこんなに自分の周りにいるんだと驚きました。

販売会ではお客さんからの質問にどう答えようと少し悩んでしまうこともありましたが、自分の話を最後まで聞いてくれるお客さんがいてくれたり、「宮城出身のあなたから説明を聞きたい」と指名してもらえることもあり、少しずつ自信を持って話すことができるようになりました。お客さんの中には、東日本大震災の時にボランティアで東北に来てくれたことを話してくれる人も多く、東北のことを好きな人がたくさんいることを知れて嬉しかったです。販売会でたくさんの人と話をし、参加以前よりも人に話しかけることに対して苦手意識が低くなり、自分の殻を少し破れたように思います。

高校生百貨店に参加して、今まで感じなかった地元の良さを感じるようになり、いつか地元に戻ってきたいという思いも強まりました。そして今回地元について興味を深めることができたからこそ、まだまだ知らないことがたくさんあることにも気づいたので、これからも地元の魅力をもっともっと見つけていきたいと思っています。



【スタッフの声】

認定NPO法人カタリバ 大槌臨学舎 拠点責任者 坂本 千紘

子どもたちが小さな変化・成長を実感できる学び舎

大槌臨学舎のスタッフとして働き始めて8年が経ちました。深く関わった子どもたちがだんだんと成人を迎えるようになりました。先日卒業生と食事をした際、とても印象深いことを言っていました。「中学校や高校で、部活でも、勉強でも、マイプロでも、なんでも良いから、一生懸命頑張ったっていう経験が、大人になってからすごく大事になってくると思う。そんな話を聞いてくれるのが、コラボ・スクールだった。」

大槌臨学舎には、日々さまざまな子どもたちが顔を出します。意欲的に何かに取り組もうとしている子、親に無理やり通わされている子、頑張ろうと思っているけどやる気が出ない子。子どもたちとの関わりを通して、短期的に劇的に変化が起こることは多くありません。だからこそ、目の前に起こる事象にばかり目が向いてしまうこともあります。しかし、中長期的にその子を見たとき、知らないうちに驚くような成長をしていることに気づくことができます。日々の変化は微々たるものです。でも、子どもたちは確実に成長する。これこそ、大槌臨学舎が長い時間同じ場所で運営し続けることの価値だということに、卒業生が気づかせてくれました。

今、目の前にいる子どもたちと向き合うことが、その子の未来を変えると信じ続けながら、今日もまた、大槌臨学舎を訪れるさまざまな子どもたちと接していきたいです。



認定NPO法人底上げ ならはこどものあそびば スタッフ 日野 涼音

きもちを表現し、大切にできる場づくり

この活動を行なっている福島県檜葉町は、福島第一原子力発電所の事故の影響により4年半の間、人が町に立ち入れなくなった背景を持っています。2016年に帰町できるようになり、2017年に学校が再開しました。私はこの町の人たちと出会って、自分の想いを持つこと、目の前の人の想いも大切にすることを教えてもらいました。それは大人だけでなく、子どもたちにも同じことが言えます。

福島県双葉郡で生まれ育つ子どもたちと一緒に、ひとりひとりが自分の「きもち」をさまざまな方法で表現し、それを大切にできる場をつくりたいと思い、「ならはこどものあそびば」を開きました。

初めは思いつくままに遊んでいた子ども、だんだんとあそびばに通うようになって、一つのことに集中したり、友達から遊びに誘われても、本当に今やりたいのか、一旦考えてみる様子も見られます。また、子どもたちから「失敗してもいいじゃん！やり直せるし！」と話してくれたり、「ねえ！これどうなるかやってみようよ！」と提案してくれたり、「それは無理じゃない？」という言葉が言わなくなったような気がします。日々、子どもたちの遊びや言葉から学ぶことはたくさんあります。

笑ったり怒ったり、色々な感情があそびばの中で生まれています。私自身も、固定観念にとらわれず、子どもたちと一緒に変化し続けることを大切にしていきます。



2022年度の支援実績

2022.4/1_2023.3/31

高校生

一般社団法人いわて圏



岩手県における「実践型探究学習」を起点とした学びの普及・拡大

「実践型探究学習」を通じた多様な学びで、岩手県の高中生400名が地域や多世代とつながる！

高校での探究学習の必修化に伴い、岩手県内でも「主体性」をもって、つくりたい未来に向けて「アクション」を行っていく「マイプロジェクト」に取り組む高校生が増えています。高校や地域と連携して、マイプロを通じた多様な学びが得られる環境づくりや高校生の学びを深めるマイプロジェクト岩手県事務局として活動しました。さらに、県内全域でマイプロを実践する高校生をバックアップする伴走者のネットワーク構築にも取り組み、岩手のマイプロの輪を広げています。

助成額：6,970,000円

認定NPO法人キッズドア



中高生

居場所機能を備えた学習支援と次世代育成

仙台市・南三陸町の中高生向け無料学習会を実施（年間415回の実施で、延べ5,369名が参加）

震災の影響を受けた世帯、経済的に困窮している世帯の中高生を対象に無料学習会を開催しました。教科学習以外にもキャリア教育、体験活動、季節行事等を行い、子どもたちが様々な人と交流する機会を設けました。また、進路相談や奨学金などの情報提供にも力を入れました。

助成額：10,030,000円

高校生

地域の担い手育成プログラム 高校生百貨店

東北3県の高中生が地元商品をセレクトした合同販売会を4箇所で開催

岩手・宮城・福島の高中生がバイヤーとなり地元商品を発掘し、地元商店へインタビューを行い、商品とともに作り手の魅力を発信する販売会を開きました。高校生たちは自分が見つけた地域の魅力を販売会でお客さんに直接伝えることで、地元を知ってもらえる嬉しさを感じるとともに、さらに地元愛を深めることができました。

助成額：4,170,000円

NPO法人かぎっこPROJECT



小中学生

ならはこどものあそびば開設と運営

ありのままのわたしを大切にできるあそびば

福島県檜葉町を拠点に、小中学生の創作活動のできる遊び場兼居場所「ならはこどものあそびば」を行なっています。大きなものをつくりたい、宿題がわからないなど、誰かが困っている時にはさっきまで見守っていた友達が助けてくれる。そんな光景が最近生まれ始めました。大人が何かを教えるのではなく、どうしたら工夫して解決できるか。子どもたちが小さな壁に向き合っていくことを大切にしています。

助成額：2,650,000円

認定NPO法人底上げ



小中高生

認定NPO法人カタリバ



コラボ・スクール

岩手県・福島県にて延べ12,274名に学びの支援と居場所の提供

コラボ・スクールは自然災害によって生活環境や学校生活が変わってしまった子どもたちに、学習と体験活動を届ける放課後施設です。現在は岩手県上閉伊郡大槌町、福島県双葉郡広野町の2拠点で活動しています。地域に根ざして活動しながら、子どもたちが毎日通える学び場・居場所の運営を行いました。

助成額：6,260,000円

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン



© 平井慶祐

小中高生

スタディクーポン提供

410名の子どもたちにクーポンを提供
大学生ボランティアは1,639回の面談を実施

岩手県・宮城県・福島県の経済的困難を抱える家庭の子ども410名に対して、地域の学習塾や習い事等で利用できるスタディクーポンを提供しました。また、大学生ボランティア95名が定期的に子どもたちの進路・学習相談を行いました（面談回数1,639回）。

助成額：14,250,000円

NPO法人トイボックス



Collabo×Station

地域での子育てを3つの多機能型施設と遊びの機会づくりでサポート

多様な特性のある子どもたちの居場所がまだまだ不足している福島県南相馬市。1つの居場所と2つの多機能型児童クラブの運営を通じ、延べ8,133人の子どもたちに居場所・学習支援・交流と体験の機会の提供を行いました。子育てしやすいまちづくりにむけて、親子での外遊び体験をサポートするプレイパークを実施し、約300人が参加してくれました。

助成額：13,910,000円

未就学児
～中学生

一般財団法人まちと人と



石巻の高校と連携・協働して行う、高校生が地域で学ぶ教育活動

石巻の高校生 578名が、地域や大人とつながる、自由な探究活動をサポート！

高校生が地域の大人とつながり、相談しながら探究活動を行うプログラムの実施や身近な若手社会人と出会い対話することで将来を考えるキャリア教育の実施、地元で活躍する人や会社が掲載された「いしのまき探究図鑑」を作成し、授業で活用しました。地域とのつながりをつくりながら、自発的な研究や学習を促すことで、高校生の地元への愛着と自己効力感を育てていくことができました。

助成額：7,790,000円

高校生

未就学児
～小学生

地域の人の知恵を活かし、地域の力を引き出しつなぐ遊び環境づくり

県内10カ所で遊び場づくり活動を支援 子どもが遊び育つ環境の拡充

子どもたちは泥遊びや水遊び、虫とりなどを通して、身近な屋外環境の中で遊ぶ感覚を少しずつ身につけています。遊び場を開催するなかで、異学年の子ども同士との交流が生まれたり、大人の想像を超える以上の「やってみよう」を子どもが提案して遊んでいる姿も見受けられました。他にも勉強会の実施、自治体の遊び場や子育て環境の現状調査など、現場づくりに留まらない活動も行いました。

助成額：3,980,000円

認定 NPO 法人冒険あそび場 - せんだい・みやぎネットワーク



小中高生

女川向学館

宮城県女川町で延べ 6,142人に学びの支援と居場所の提供

宮城県女川町で、震災の影響を受けた子どもたちが安心して学ぶことのできる居場所と学びの機会を提供しています。『子ども・若者の新しいスタートに伴走する生態系を創出する』ことをミッションに掲げ、子どもたちが小さなチャレンジができる場所、若者たちが「ただいま」と言える第三の居場所運営をしています。

助成額：10,540,000円

一般社団法人まちとこ



高校生

みんながホッとできる居場所づくり

みんなで作って、みんなで食べる。だんらんから生まれる安心した場とつながり

生きづらさや心の痛みを抱えた高校生や若者たちが集い、みんなで食事を作って食べたり、ものづくりや体験活動などを行いました。しゅろハウスに来ることで、小さな成功体験と失敗体験を繰り返し、助け合いながら生活力を高め、温かい人間関係づくりにつながっています。何より「笑顔と感謝の輪」が広がり、一人一人が自分らしく生きる道を見つけられるようになっています。

助成額：5,160,000円

NPO法人まなびのたねネットワーク



高校生

福島県高校生の実践型探究学習支援ネットワーク構築・強化

延べ207人の福島の高校生が自分のテーマに出会い、探究活動を深める機会を提供

自分らしいテーマをもって探究活動ができる環境づくりとして、地域ボランティアを経験して自分のありたい姿に気がつくマッチングプラットフォーム「うずうず」を立ち上げました。また、マイプロジェクト福島県事務局としても活動し、福島県全県の幅広い地域の高校生が、自らの“マイプロジェクト”を表現し、ロールモデルから助言を受ける機会を創出しました。

助成額：5,960,000円

一般社団法人未来の準備室



ご支援いただいた皆さま

ハタチ基金では、2022年度、多くの企業・団体さまからのご寄付をいただきました。継続的にご支援くださる企業・団体さまも多く、ポスターやチラシの作成・配布など、子どもたちを支える輪を一緒に広めるためのご協力もいただいております。



一志眼科 / 維摩池周回チャリティーマラソン / 金澤留造酒店 / 共同カイテック株式会社 / 株式会社グッドスポーツ / 株式会社グランド・ワン
 クリエイター集団・フラール / 株式会社 CORE 技術研究所 / コアスタッフ株式会社 / 株式会社サンペール / J-POWER グループユニオン
 株式会社ジノ・ソニック / 女声アンサンブル Orso nel bosco / 学校法人白百合学園 関町白百合幼稚園 / 新宿レッドクロス 緊急ナイト
 株式会社シンセ / 株式会社生活総合サービス / Save the Birthday 実行委員会 / 株式会社セールスフォース・ジャパン
 損保ジャパン株式会社 宮城県内職員一同 / たかはしきもの工房 / 株式会社 WJ プロダクツ / 中京商店 真剣堂 / 津軽警備保障株式会社
 株式会社 DINOS CORPORATION / デッカーズジャパン合同会社 / 日油株式会社 / 一般社団法人日本サロネーゼ協会
 有限会社ノエルコーポレーション / ハンドベルアンサンブル YD、ハンドベルカンパニー一音
 東日本大震災被災者支援チャリティコンサートウォークトゥギャザー実行委員会 / 被災地支援サークル てとて / 法政大学第二高等学校
 ボランティアグループ ～気ままに古本市～ “Frivilliga japanska bokloppisen” / 松谷商事株式会社 / モスバーガー共栄会東北支部
 焼肉の家マルコポーロ / 株式会社 ライフコミュニケーション / 株式会社 ラポート / 一般財団法人リスモン財団 ※ 敬称略・五十音順
 ※ その他、たくさんの企業・団体さまからご支援をいただきました。

中学生

子どもの希望と意志を育むための居場所と活動機会の創出

商店街のフリースペースを一新！
 延べ 150 人の中学生に街中の居場所を提供

岩手県宮古市において、商店街の空き店舗に開設していた中学生向けのフリースペース「みやっこハウス」を全面改装し、居心地がよく、新たな興味関心に出会える居場所として整備しました。オープンから 2 か月で延べ 150 人ほどの中学生が利用し、スタッフとの対話を通して、自分や町の未来について考える機会となりました。また、みやっこハウスを拠点に「地域活動部」を開始し、延べ 50 人の高校生が地域のイベントやボランティア活動に参加し、地域への愛着を深めました。

助成額：7,600,000円

NPO 法人みやっこベース



会計報告

【公益社団法人ハタチ基金 決算報告】

正味財産増減計算書 2022年4月1日～2023年3月31日 (単位:円)

科目		2022年度実績	
一般正味財産増減の部	経常収益		
	受取寄付金	56,167,851	
	受取寄付金振替額	80,156,865	
	雑収益	5,907	
	経常収益計	136,330,623	
一般正味財産増減の部	1. 事業費	人件費	0
		助成金	99,270,000
		事務局運営費	10,761,958
		その他事業費	16,619,856
	2. 管理費	人件費	0
		事務局運営費	3,587,320
		その他事業費	6,091,489
		経常費用計	136,330,623
	当期一般正味財産増減額	0	
	一般正味財産期首残高	1,096,100	
一般正味財産期末残高	1,096,100		
指定正味財産増減の部	受取寄付金	144,323,211	
	一般正味財産への振替額	▲80,156,865	
	当期指定正味財産増減額	64,166,346	
	指定正味財産期首残高	226,173,302	
	指定正味財産期末残高	290,339,648	
正味財産期末残高	291,435,748		

●残高は2023年度に行う事業および、基金の継続的な運営管理のために使用させていただきます。
 ●呼びかけ人の皆様からのご寄付については一般寄付とし、東北の子どもたちを支援する団体の活動および基金の運営管理など、ハタチ基金の活動全般を長期的に継続していくために使用させていただきます。●ご都合のよい時にいただく都度のご寄付については指定寄付金とし、東北の子どもたちを支援する団体の活動のために活用させていただきます。

2022年度 公益社団法人ハタチ基金助成事業について

助成件数：13件
 助成金額：99,270,000円

ご寄付について

いつもあたたかいご支援をくださりありがとうございます。ハタチ基金では個人寄付・法人寄付でのご支援を承っております。今後とも応援のほどよろしくお願いいたします。

銀行振込 個人の寄付 法人の寄付
【三菱UFJ銀行】
 高円寺支店 (店番号:155)
 口座名義:公益社団法人ハタチ基金
 口座番号:01442274 (普通)

※大変恐れ入りますが、振込手数料はご負担をお願いしております。

支援者様からのメッセージ

株式会社 一ノ蔵 マーケティング室 室長 山田 好恵様

「3.11 未来へつなぐバトン」という名前のお酒を、毎年3月11日に向けて販売しています。私たちの蔵も被災しましたが、多くの方々に支えられ、いち早く復興に向けて第一歩を踏み出すことが出来た「一ノ蔵」のご恩送りとして「3.11 未来へつなぐバトン～醸造発酵で子どもたちを救おうプロジェクト～」を発足させ、売上金の全額をハタチ基金に寄付しております。震災時0歳だった赤ちゃんが無事にハタチを迎え一ノ蔵のお酒で乾杯してくれる日を夢見て、私たちの応援と伴走はまだ続きます。

個人寄付者様からのメッセージ

- ・僕にもまだ小さな子どもがいます。もし自分が被災者になったことを考えると、定期的に何かを支援してもらえることは本当に心強いと思い、今回登録させていただきました。少しでも笑顔が増えていただければ幸いです。
- ・辛い現実と向き合う子どもたちのために、少しでも明るい未来を夢見ることへのお手伝いができたのなら幸いです。生まれてきて楽しかったよ、と。全ての人がそう思える暮らしを送れることを願っています。

